



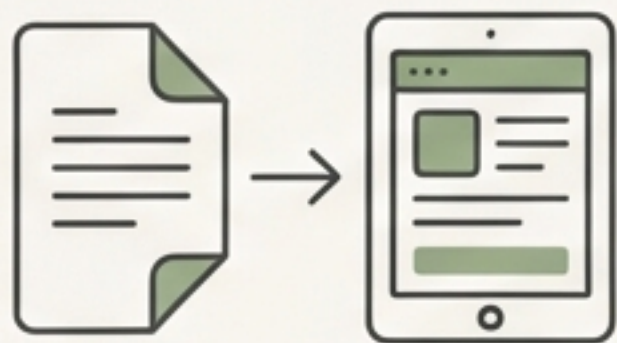
教育DXの実践：鹿児島市が拓く 「学習eポータル」による変革

～ビジョンからデータ主導の実践まで～

木田 博

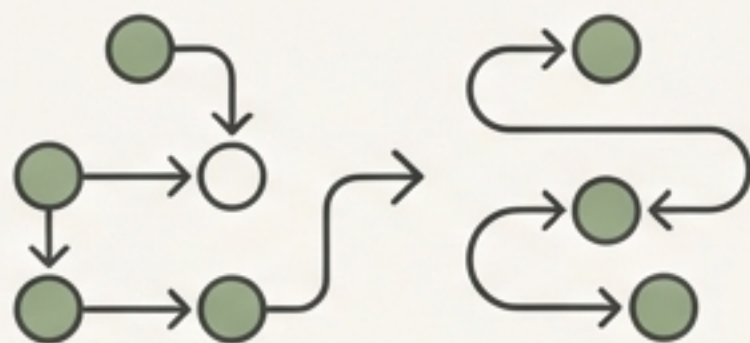
鹿児島市教育委員会・教育DX担当部長

目指すべきは「デジタルトランスフォーメーション」



1. デジタイゼーション (Digitization)

アナログからデジタルへの置き換え
例：紙のアンケートをWebフォーム化



2. デジタライゼーション (Digitalization)

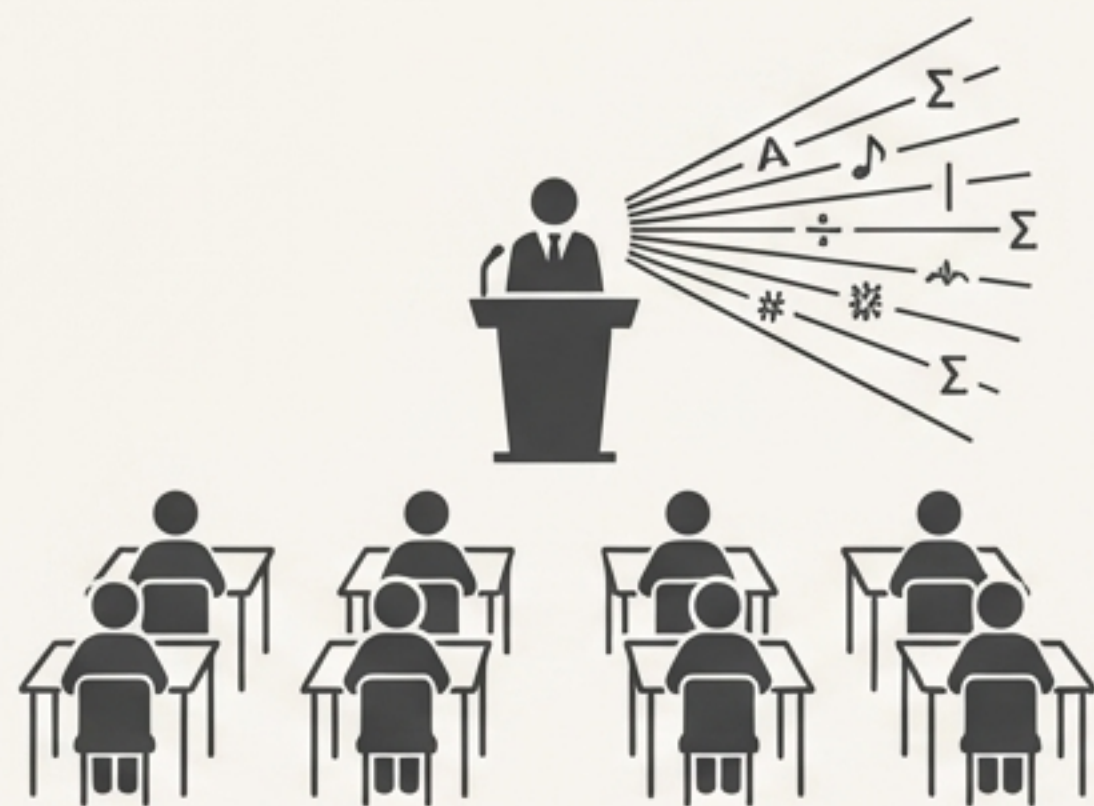
プロセスを見直し、
新たな学習モデルへ最適化
多くの学校が現在このフェーズにある



3. デジタルトランスフォーメーション (Digitalization Transformation)

既存の学習モデルを質的に変革し、
新たな価値を創造する
これが教育DXの最終的な「カタチ」

「教師中心」から「学習者中心」の学びへのパラダイムシフト



従来の一斉学習 (Teacher-Centric Model)

教師が児童生徒に理解・習熟を図る
教師の指示で、指定されたツールを全員が使う
このままではDXの域に到達できない



学習者中心の学び (Learner-Centric Model)

子供自身が目標を設定し、学習方法を選択・自己評価する
個々の課題解決のため、子供が自らツールを選択・判断する
個々の特性や進度に応じた柔軟な学びを実現

機会の増加が「活用の障壁」に：クラウドサービス導入の課題

子供たちが自分の学びに必要なツールを選択できるようにするには、多様なクラウドサービスへのアクセスが必要。



サービスの数だけID・パスワードが必要になる

子供1人が多数のアカウントを使い分ける負担

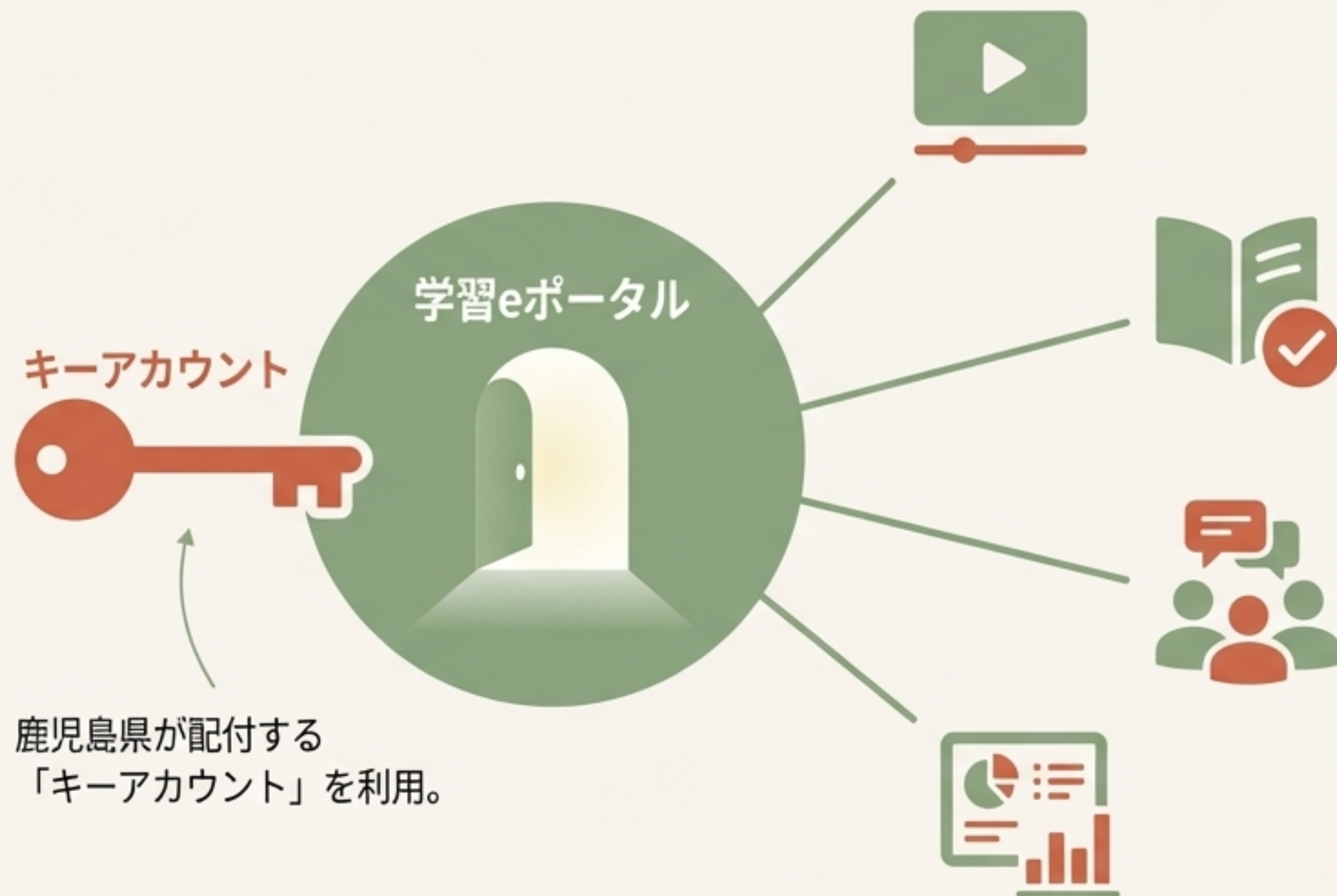
サービスの数だけ年度更新作業が発生し、教員の業務が膨大に

結論: この状況が、日常的なICT活用の大きな妨げとなる。

解決策：すべての学びの「入口」となる学習eポータル

様々なサービスを一つにまとめ、子供たちや教職員がアクセスしやすくする。

- **アクセスのハブ (Access Hub) :**
全てのクラウドサービスへの単一の入口。
- **データ利活用の基盤 (Data Platform) :**
教育データの集約と活用を可能にするプラットフォーム。



「ワンID・一括更新」が教員の負担を劇的に削減する

Before



Benefit 1: シングルサインオン (Single Sign-On)

端末に一度ログインすれば、ポータルや各サービスへの再ログインは不要。

児童生徒の利便性が向上し、活用が促進される。

After



Benefit 2: 属性情報の同期 (Attribute Synchronization)

学年・学級・出席番号などの属性も自動で同期。
年度更新時、キアアカウントの更新だけで全サービスの更新が完了。

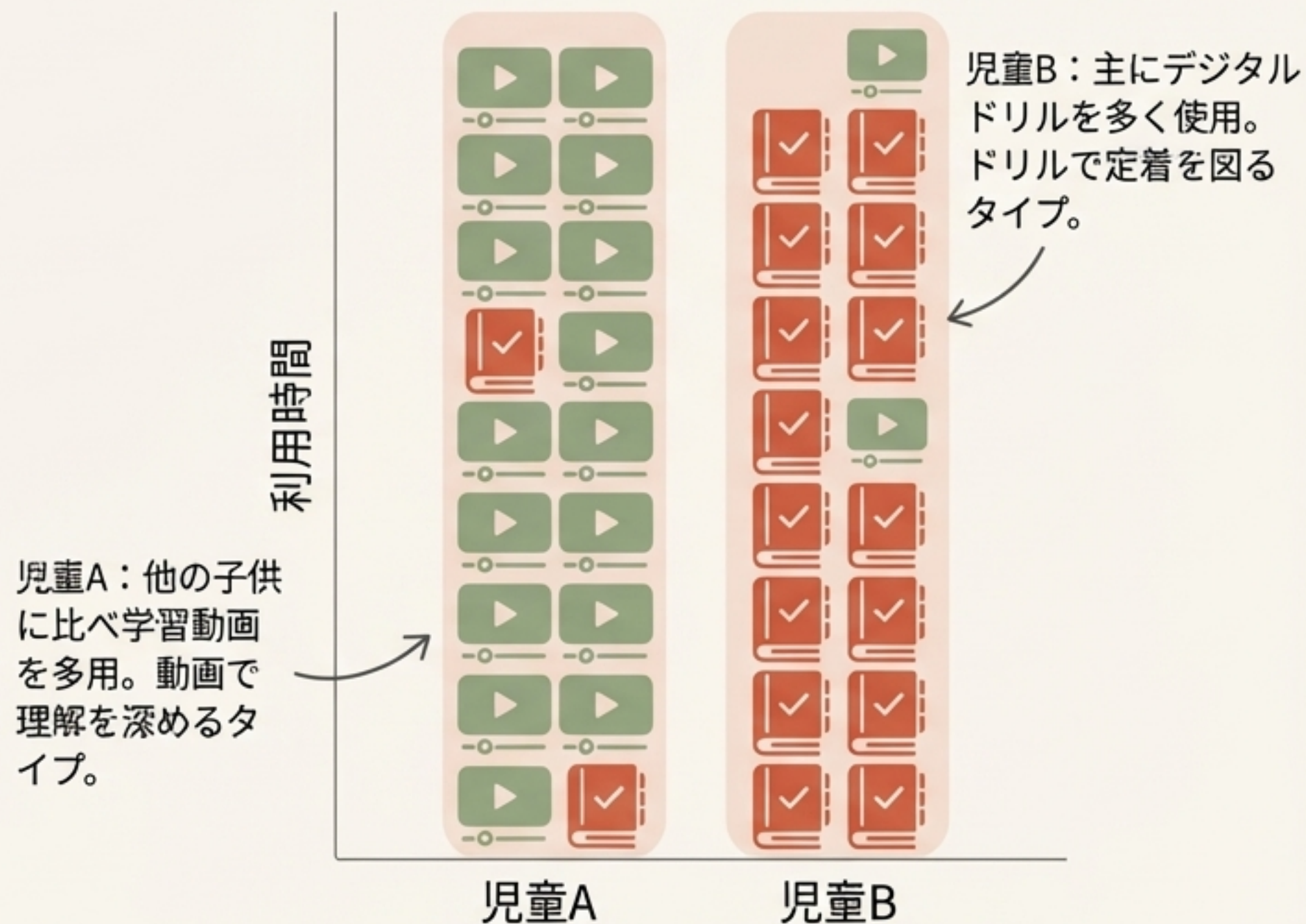
効果：個別作業が不要になり、作業量を格段に削減。

【児童生徒】 自分の学びを可視化し、自律的な学習者へ

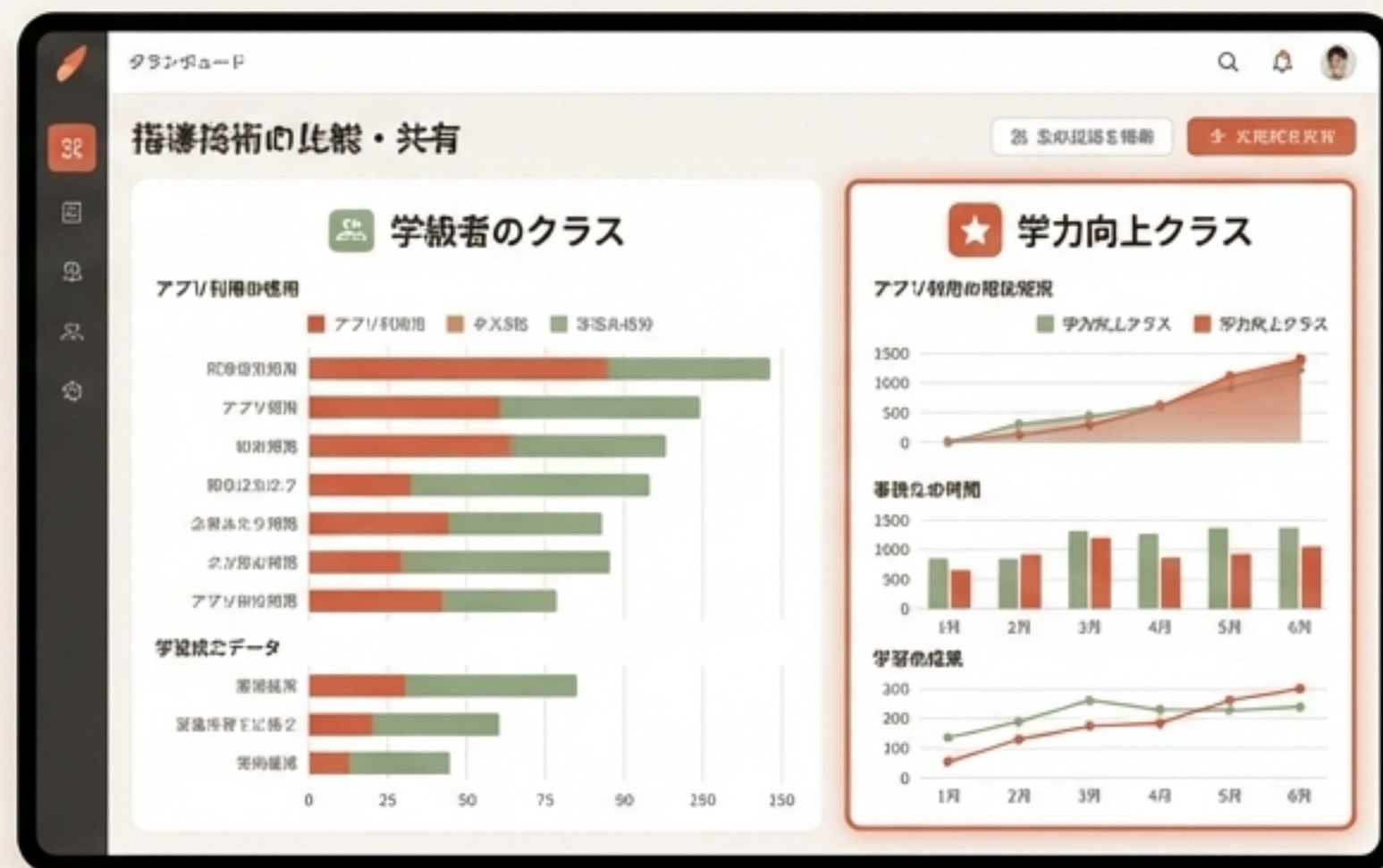
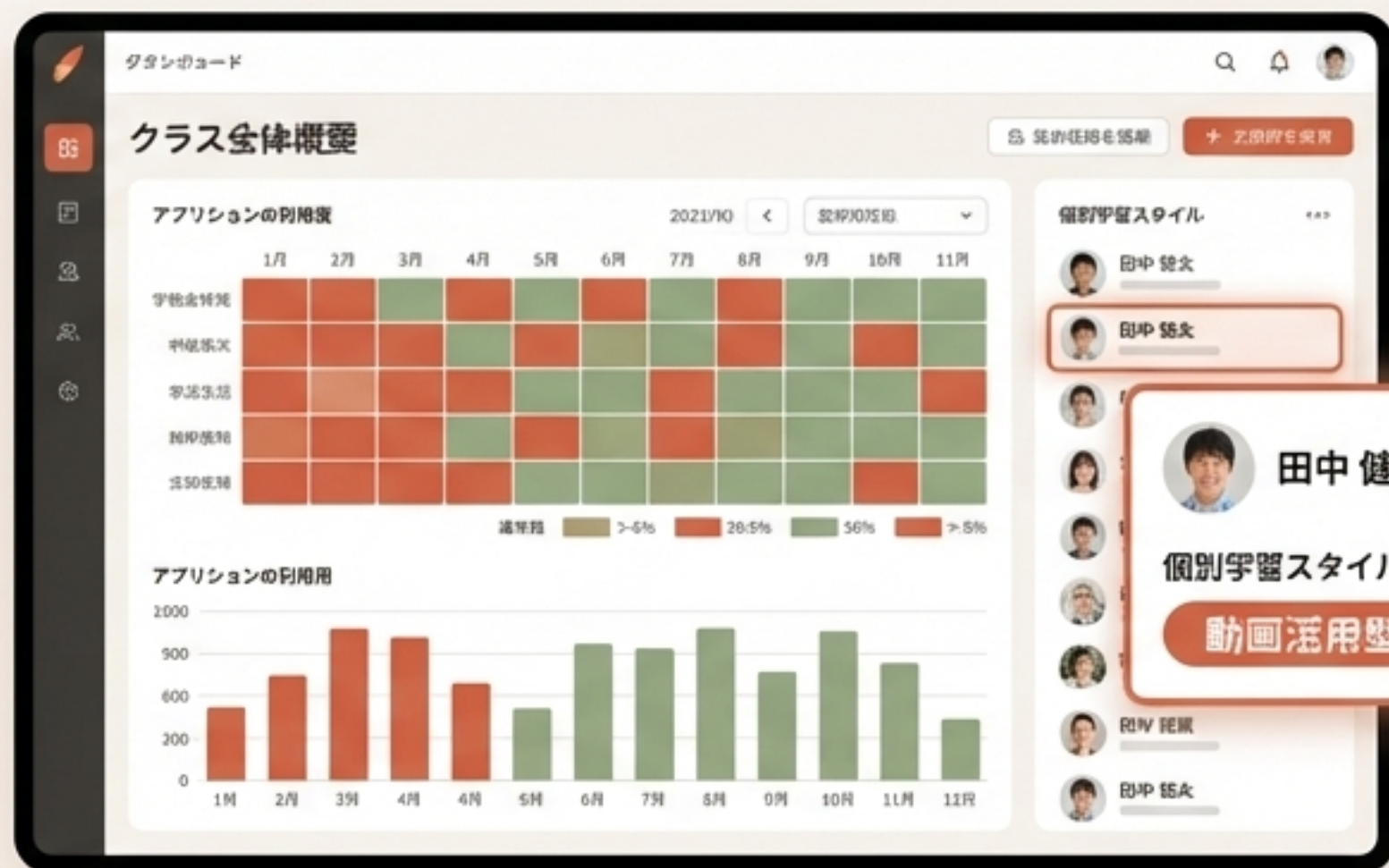
- Key Function: 児童生徒は自分専用ページから、アプリの利用状況やアクセス日時を確認できる。
- Impact:
 - 自分の学び方の特性を客観的に知ることができる。
 - データ活用の有効性を実感できる。
 - 自律的な学びの実現に繋がる。

Note: この差は、学び方を子供に委ねる「自由進度学習」において、より顕著に現れる。

学習スタイルの比較



【教員】 データが拓く、個別最適な指導と指導技術の共有



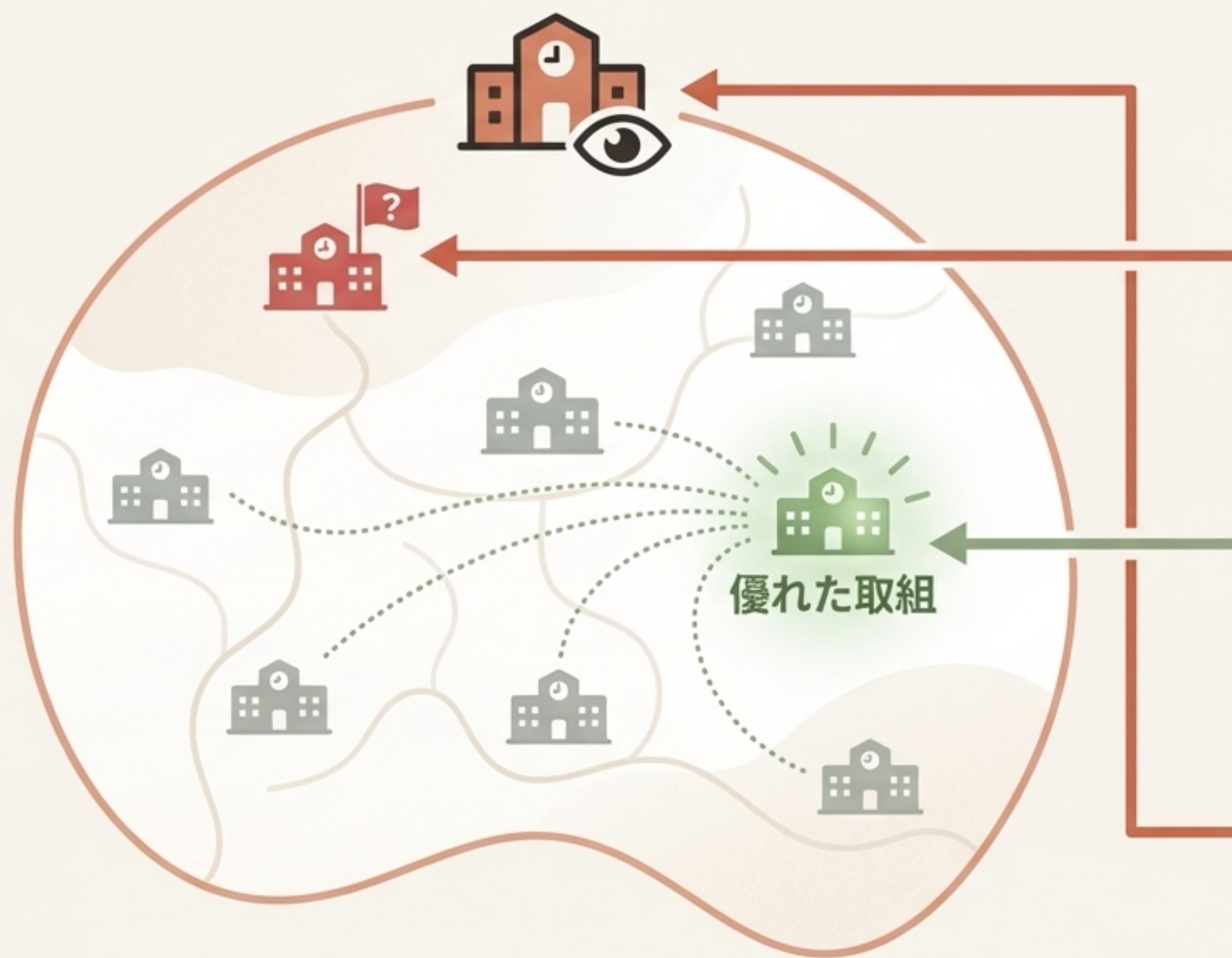
個々の学びの特性を把握

- 学級全体のデータから、指導の特徴や取組状況を把握。
- 個々の児童生徒の学び方の特性を理解し、個別最適な指導に繋げる。

有効な指導技術の可視化

- 学力向上が顕著なクラスのアプリ利用状況を分析。
- これまで可視化が難しかった「有効な指導技術」を教員間で共有し、指導法改善に活かす。

【教育委員会】データに基づく、効果的な学校支援



棒健機能

管理下の全学校の活用状況を横断的に把握。

課題のある学校への支援

活用が進んでいない学校やサービスの原因・課題を特定し、解決を支援。

優れた取組の横展開

データから参考となる特徴的な取組を発見。そのノウハウを所管下の学校全体へと広げる。

教育行政施策の改善

データに基づき、施策の見直しと改善に繋げる。

【保護者】 家庭との連携を強化し、共に子供を育む

保護者用アカウントを発行し、自分の子供のデータ
(アプリ利用時間・回数など) をスマホ等から確認可能。

- 子供の学習への取組を正當に評価し、賞賛や対話の機会を創出。
- 欠席連絡や学校からのお知らせ、アンケートもポータル上で完結。
- 朝の電話連絡や紙の配布物が減り、利便性が向上。



プライバシー保護の視点: 子供のデータを全て保護者が閲覧できるわけではない。
何を見せ、何は見せないかの検討が不可欠。

【心のケア】 学習ログからライフログへ：心と体の状態も見守る

コンセプト

学習に関するログだけでなく、心身の状況（ライフログ）も記録・表示。

主な機能：

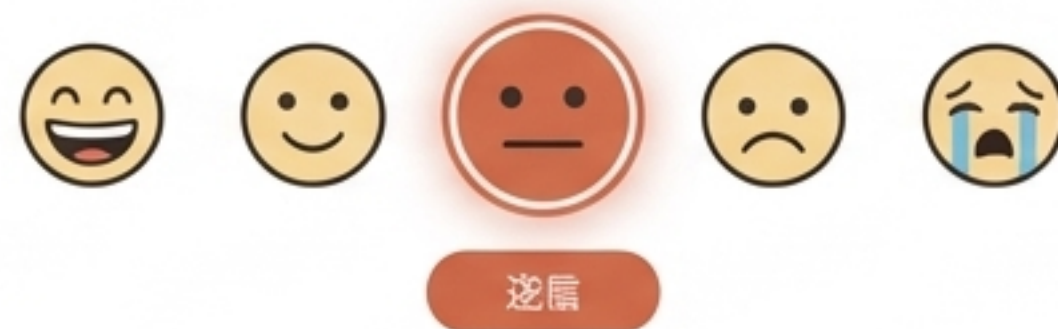
「心の健康観察」をポータル内で毎日簡易に実施。
文部科学省「COCOROプラン」でも示された有効な方法。

インパクト：

- より高い頻度と粒度で実態を把握。
- 子供の変化にいち早く気づき、いじめ・不登校等の早期発見・早期対応に繋がる。

毎日の健康観察（生徒用）

今日の気分はどうですか？



クラス健康観察（教員用）

山田 太郎 ●	佐藤 花子 ●	鈴木 一郎 ●	太田 進一 ●
高木 穂之 ●	篠中 悠子 ●	梶本 龍 ●	橋本 雛 ●
真辺 梨子 ●	田中 美咲 ⚠	小山 篤哉 ●	篠藤 正也 ●

アラート（警告）：
一定期間、気分不良が続くと表示。
学校全体で見守る体制を構築。

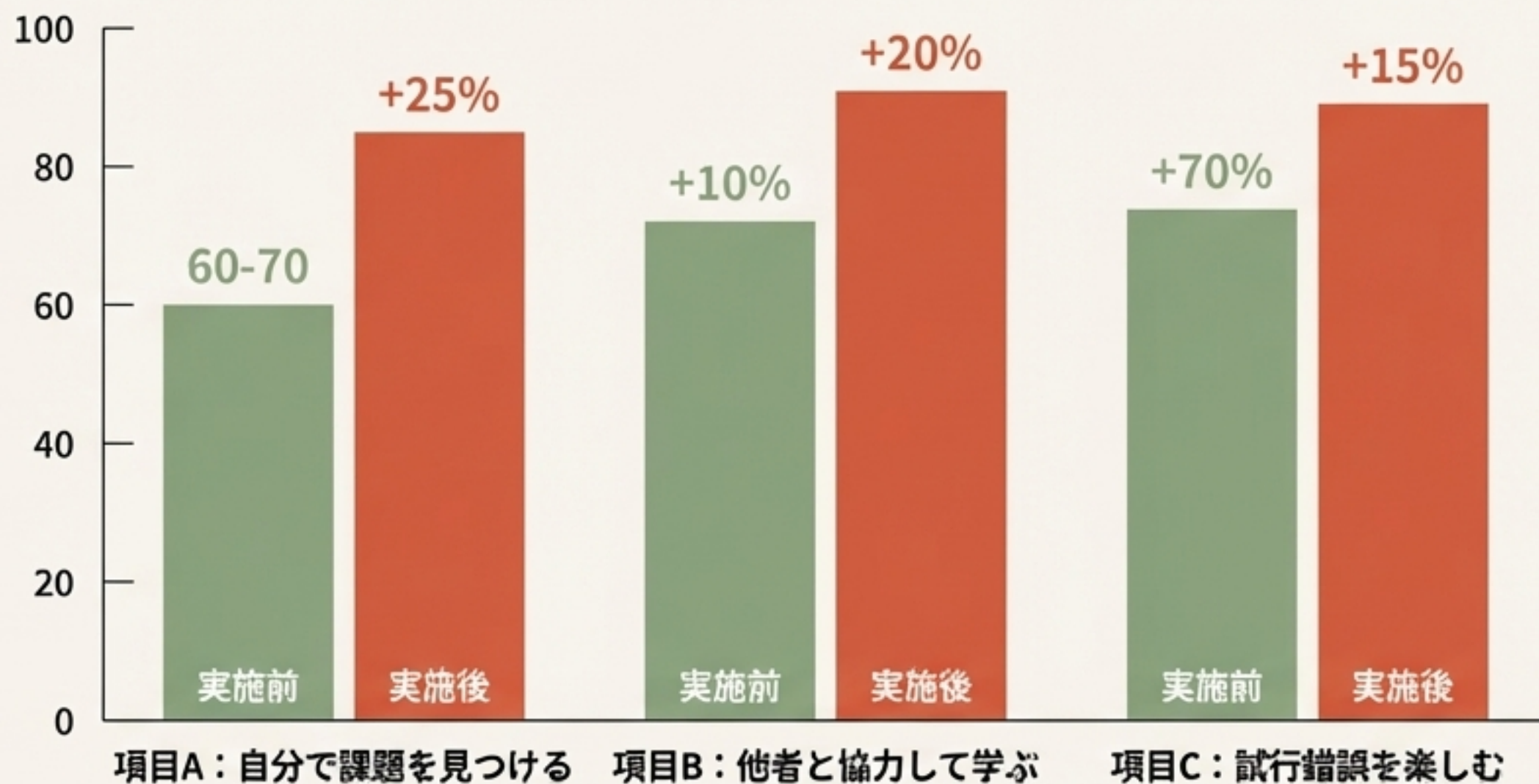
【学力・非認知能力】 MEXCBT連携による学びの成果測定



学習eポータルが、文科省のCBTシステム「MEXCBT」の入口となる。

【実践効果】 データで示す 「自由進度学習」 の導入効果

小学校高学年において、自由進度学習の「実施前」と「実施後」で非認知能力に関する質問紙調査のデータを比較



主体的・対話的で
深い学びに関する
ほぼ全ての項目で
数値が向上

自由進度学習の導入には、明確で測定可能な効果があったと評価できる

デジタル教育プラットフォームの要件と克服すべき課題

プラットフォームに求められる要件 (Platform Requirements)



最重要: 多様なクラウドサービスのアカウントの一元管理。



教育データの集約と意味ある関連付けによる表示。



教員や管理者にとっての管理・運用の利便性。



データの保全とセキュリティの信頼性。

克服すべき課題 (Challenges to Overcome)



各サービスにデータが散在する「サイロ化」。



サービス間のデータ連携の標準化が不十分。



複数サービス間での機能重複によるコスト増・運用複雑化。



特定の業者に依存する「ベンダーロックイン」のリスク。

成功の鍵は「全体最適」の視点によるシステム設計

プラットフォーム導入時には、特定の一機能や部署の視点だけでなく、システム全体の設計について検討することが極めて重要である。

- 有識者や教育ICT系コンサルティングを積極的に活用する。
- 所管課のみならず、教育委員会全体で、各課横断的に必要な機能を確認する。

これらが、教育DXを真に実現するための基盤となる。